CAR MATE
0382-0941A

スーパーバリケードSQ2000

〈取扱説明書・保証書〉

目　次

ページ

はじめに ・・ 4

SQ2000の特徴 ・・ 5

警告・注意事項（必ずお読みください） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

内容物・各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

リモコン・2段階ショックセンサー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
アンテナユニット・6音色サイレン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
ドアロックコード・ショックセンサー接続コード・ドア検出コード・オプションケーブル・リセットスイッチ・・・ 13
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

使いかたの基本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

セキュリティをONにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
セキュリティをOFFにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
センサー反応時の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 鳴っているサイレンを止めるには
- アイドリング中に働くセンサーについて

応用操作 ・・ 21

セキュリティレベルを切り替える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

パニックアラームを鳴らす ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

ページ

基本的な本体設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
2段階ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・ 26
2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する ・・・・・・ 27
サイレンを鳴らさずセキュリティをON/OFFする ・・・・・・・・ 28
「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする ・・・・・・・・ 29
LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・ 30

システム初期設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 32
電流センサーのON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 33
電流センサー感度の選択 ・・・・・・・・・・ 34
撃退警報時間の設定 ・・・・・・・・・・ 35
オンタイマー機能の時間設定 ・・・・・・・・・・ 36
アイドリング中の撃退入力検出の有無設定 ・・・・・・・・・・ 37

取付け後のメンテナンスなど ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ・・・・・・・・・・ 40
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・ 41
交換用ヒューズについて ・・・・・・・・・・ 42
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・ 43

仕様 ・・ 46

保証書 ・・ 47

はじめに

このたびは、スーパーバリケードSQ2000をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

SQ2000（以下本品という）は、増加する車両盗難や車上荒らしから愛車を守るカーセキュリティシステムです。

本書をよくお読みになって正しく使用されることが、本品の持つ高い防犯効果を最大限に発揮することにつながりますので、ご使用前に必ず一読願います。

また、お読みになった後も、いつでも見ることができるよう、大切に保管しておいてください。

※本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。
※誤った取付け、使用による事故、破損等の責任は一切負いかねます。
※本品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

危険 重大事故が起こる状況のもの

警告 人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの

注意 物品を破損、故障させたり、セキュリティ能力の低下につながるもの

参考 取付け、取扱において知っていると有益な情報

SQ2000の特徴

セキュリティ機能

■セキュリティレベル選択機能（→P22）

●使用環境に合わせた4段階の車両サイレンレベルが、リモコンで選択できます。

■スターターカット機能（車種別専用ハーネス適合車種のみ）（→P32）

●セキュリティ作動中は、例え純正キーでもエンジンを掛けることができません。
※スターターカット機能は、SQ2000リモコン操作でのドアロック／アンロックに連動します。

■4センサー標準装備（→P18）

「微衝撃」、「高衝撃」、「電流」、「ドア」の4つの異なったセンサーが標準装備されていますので、車への犯行を敏感にキャッチすることができます。

■2段階ショックセンサー搭載（→P18･26）

新設計の電磁誘導式センサーにより、音による誤作動を大幅に軽減しました。「微衝撃」、「高衝撃」センサーは、それぞれのボリュームにより、独立して感度の調整が可能です。

■ドアロック連動機能（適合車種のみ）（→P16･17）

リモコンでのセキュリティON･OFFに連動して、車のドアロック･アンロックを制御することもできます。

■115dB、6音色サイレン搭載

サイレンはコンパクトながら、大音量115dBを実現し、警報効果の高い6音色を搭載しました。

■スペアリモコン対応（→P40）

オプションのリモコンを最大4台まで追加することができます。
※本品標準リモコンを含めて最大5台まで使用可能です。

■LEDスキャナー機能搭載（OFF可）（→P30）

アンテナユニットに装備されたLEDにより、セキュリティ装備車であることを視覚的にアピールします。

■警報メモリー機能（→P17）

警報が鳴ったことを記憶し、セキュリティ解除時の確認音により警報履歴があったことを確認できます。

■パニックアラーム機能（→P24）

リモコンで強制的に撃退警報を鳴らすことができます。

■誤作動キャンセル機能

感度の調整不備などにより、注意警報･警告警報が連続して反応した場合には、内蔵のマイコンが判断し注意警報･警告警報を自動的にカットします。
※連続反応がなくなると注意警報、警告警報は自動復帰します。

■オンタイマー機能（→P36）

エンジン停止後に電動ファンやオートスタビライザーが作動する車の場合、反応するおそれのあるセンサーだけを一定時間カットすることができます。

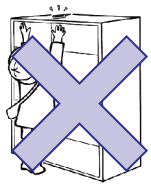
■センサー&サイレン増設可能

オプションのセンサーやサイレンなどを組み合わせることで、セキュリティを一層システムアップすることができます。

警告・注意事項（必ずお読みください）

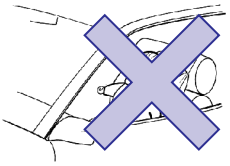
警告事項

⚠警告



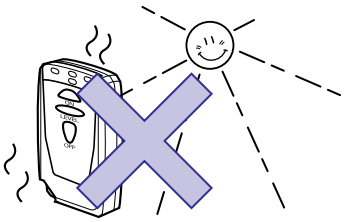
リモコンは、お子様の手の届く場所には置かないでください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告



お子様などを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠警告



リモコンは、直射日光の当たる場所や暖房器具の近く等、高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になり、やけどや故障の原因となります。

⚠警告

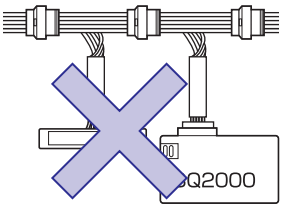
運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

⚠警告

サイレンを作動させる場合は、離れて作動させてください。
聴覚障害の原因となります。

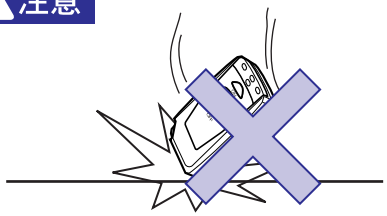
注意事項

⚠注意



当社指定品以外のエンジンスターター（ターボタイマー）や盗難警報機類との、併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

⚠注意

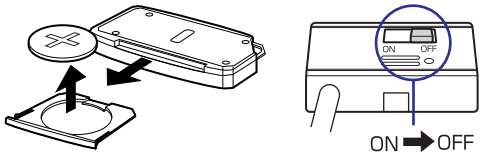


リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意

リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意



長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜き、リセットスイッチをOFFにしてください。
故障の原因となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

⚠注意

製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないでください。　変形・変色や故障の原因となります。

⚠注意

サイレン部分の穴をふさがないでください。
穴をふさぐと故障の原因となります。

禁止事項

⚠禁止

12V車専用です。
トラックなどの24V車には、お取付けできません。

⚠禁止

この製品は、日本の電波法に適合しています。国外での使用は、違法となる場合がありますので、おやめください。

参考　極まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合はアンテナユニット及びメインユニットの取付位置を変更することで改善することがあります。

参考　本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考　本品の2段階ショックセンサーは、車体に与えられた衝撃をセンサーが感知しますが、車両の違いや取付状態の違いにより、感知する衝撃は変化します。取付後に必ず感度調整を行なってください。

参考　本品の電流センサーは、ドア開放時の室内灯の点灯（もしくは、ドアロックモーターの動き）等による電流および電圧の変化を感知します。そのため、室内灯のスイッチが「DOOR」の位置になっていない場合は感知しません。また、ドアセンサーに関しても、配線場所によっては室内灯のスイッチが「DOOR」の位置になっていないと感知できない場合があります。

参考　本品のスターターカット機能は、車種別専用ハーネスで取り付けた場合のみ機能します。従って、車種別専用ハーネスの設定がない車種では、スターターカット機能は使用できません。

内容物・各部の名称

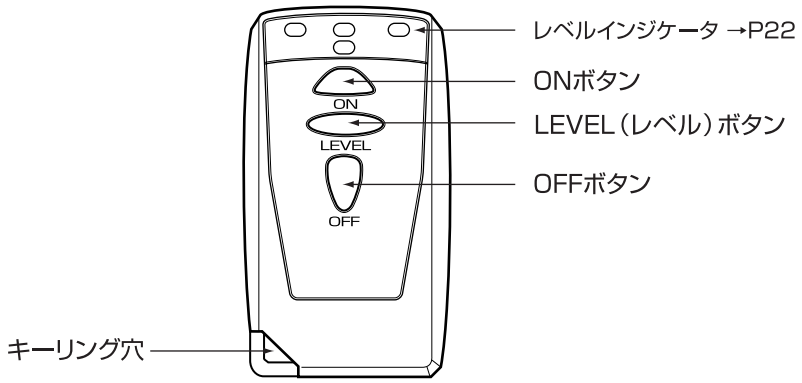
ページ

リモコン・2段階ショックセンサー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
アンテナユニット・6音色サイレン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
ドアロックコード・ショックセンサー接続コード・ドア検出コード・オプションケーブル・リセットスイッチ・・・ 13
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

内容物・各部の名称 ①

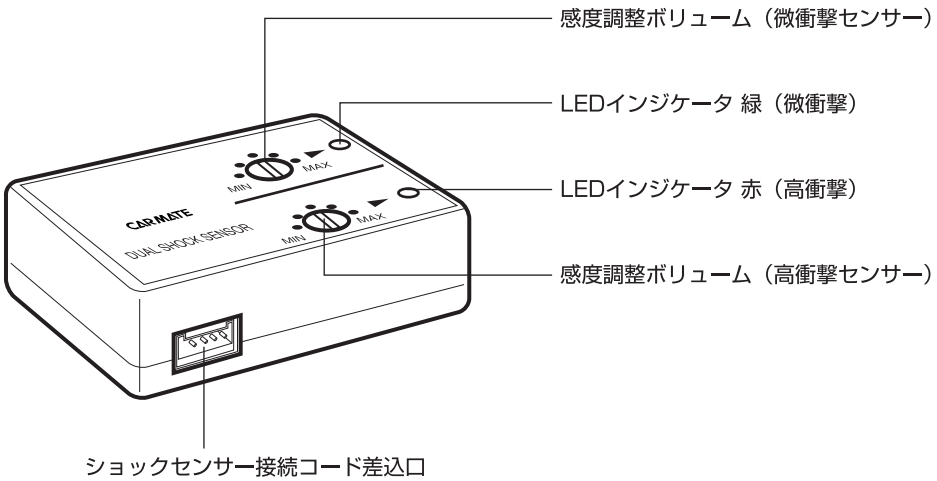
リモコン （1ヶ）

セキュリティをコントロールするリモコンです。
セキュリティレベルの切替も行うことができます。



2段階ショックセンサー （1ヶ）

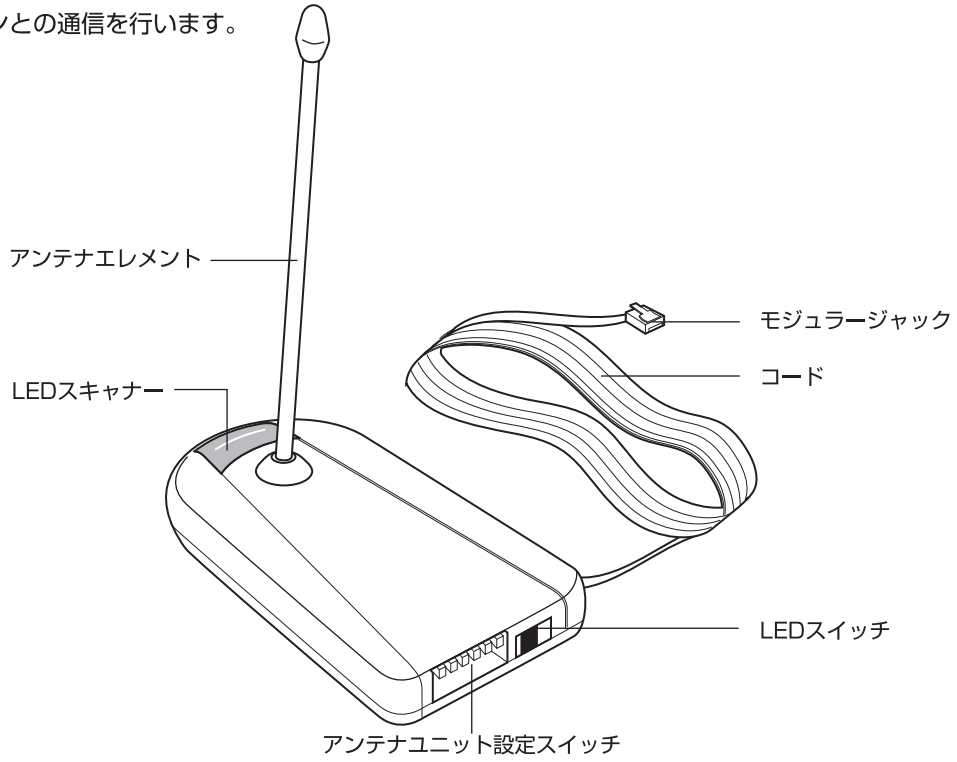
愛車に衝撃があったことを感知します。→P18・26



内容物・各部の名称 ②

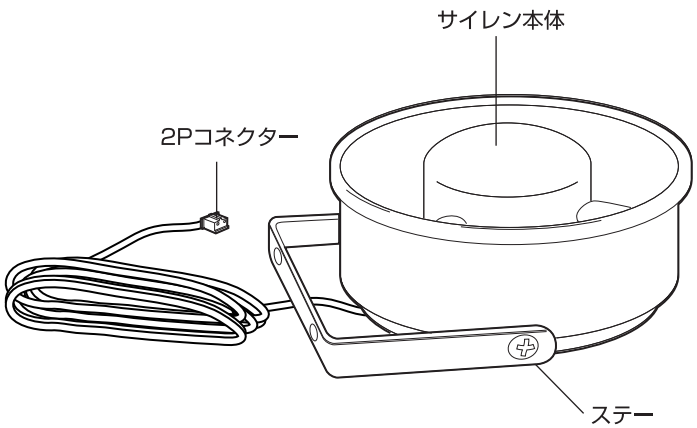
アンテナユニット （1ヶ）

リモコンとの通信を行います。



6音色サイレン （1ヶ）

115dBの大音量で異常を知らせます。

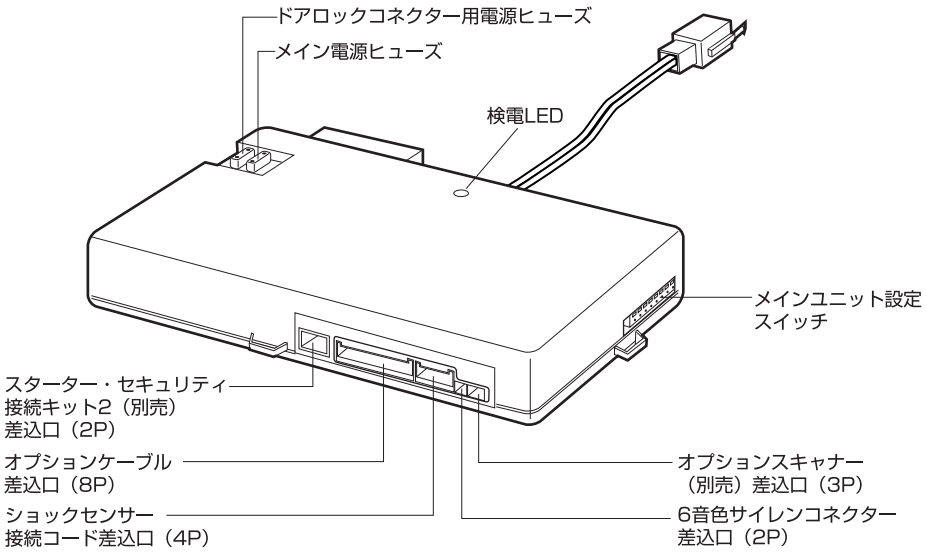


内容物・各部の名称 ③

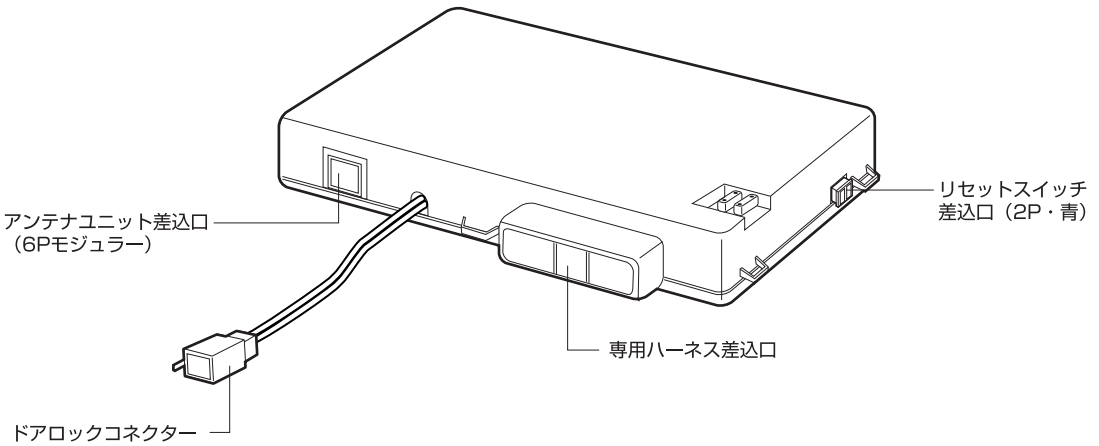
メインユニット （1ヶ）

本製品の心臓部です。セキュリティやドアロックなど様々なコントロールを行います。

▼ショックセンサーコード側



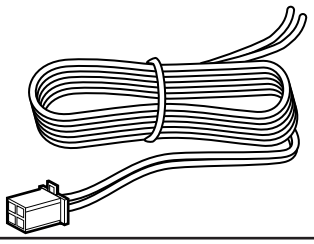
▼専用ハーネス側



内容物・各部の名称 ④

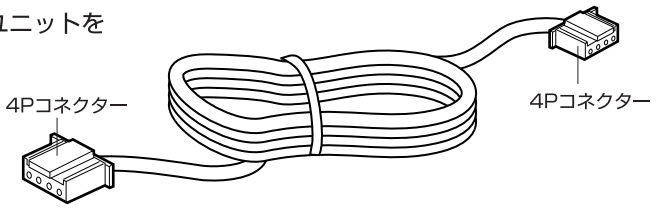
ドアロックコード （1ヶ）

車両のドアロック・アンロックを
コントロールするための
コードです。



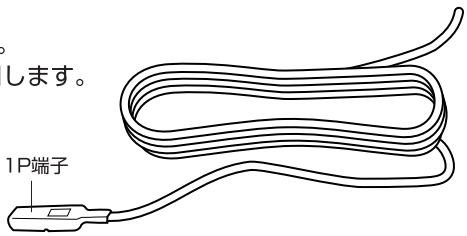
ショックセンサー接続コード （1ヶ）

2段階ショックセンサーとメインユニットを
接続するためのコードです。



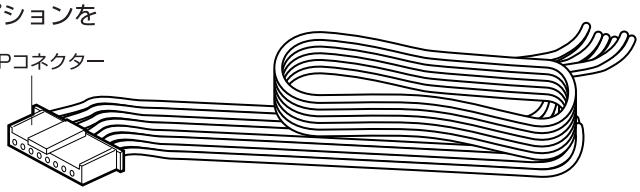
ドア検出コード （1ヶ）

ドアの不正解放を検出するためのコードです。
ハーネスの13Pコネクターに差し込んで使用します。



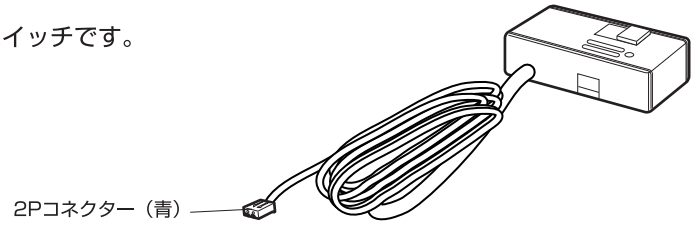
オプションケーブル （1ヶ）

センサー・サイレンなどの別売オプションを
接続する際に使用します。



リセットスイッチ （1ヶ）

本システムの電源スイッチです。

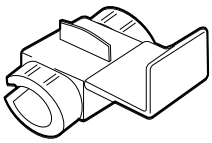


内容物・各部の名称 ⑤

その他付属品

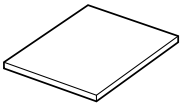
●ワンタッチコネクターA… 3ヶ

ドア検出コードなどの配線に使用します。



●両面テープ… 4枚

アンテナユニットや2段階ショックセンサーの取付けに使用します。



●防犯ステッカー… 1枚

後部座席窓などに貼付けます。

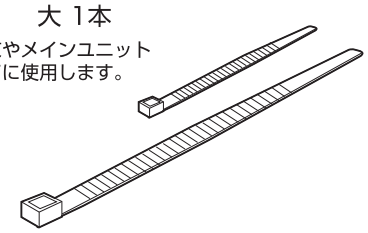
※本品の標準システムに通報機能はありません。

●キーリング… 1ヶ

リモコンのキーリング穴に取付けます。

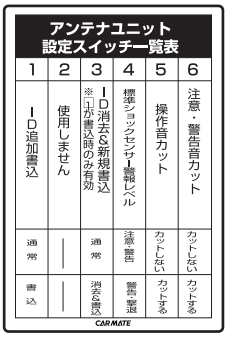
●結束バンド…小 5本
大 1本

配線の結束やメインユニットの固定などに使用します。



●モードシール… 1枚

運転席ドアを開けた時に見えるドアの付け根付近などに貼付けます。



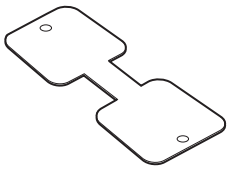
アンテナユニット
設定スイッチ一覧表

1	2	3	4	5	6
ID追加書込	使用しません	ID消去&新規書込 ※「1」が書込時のみ有効	標準ショックセンサー警報レベル	操作音カット	注意・警告音カット
通常	—	通常	注意・警告	カットしない	カットしない
書込	—	消去&書込	警告・警報	カットする	カットする

CAR MATE

●アンテナステー… 1ヶ

アンテナユニットの取付けに使用します。



使いかたの基本

この項では、本品の基本的な使いかたについて解説しています。

ページ

セキュリティをONにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
セキュリティをOFFにする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
センサー反応時の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

- 鳴っているサイレンを止めるには
- アイドリング中に働くセンサーについて

セキュリティをONにする

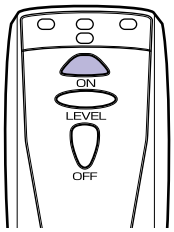
⚠注意 衝撃センサーの感度調整などを行なっていない場合、不意に6音色サイレンが鳴る可能性があります。
必ず各種設定を行なった上でセキュリティをONにしてください。

操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

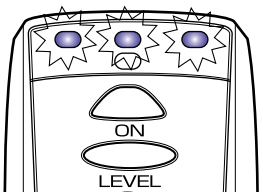
❶ リモコンの

ボタンを押します



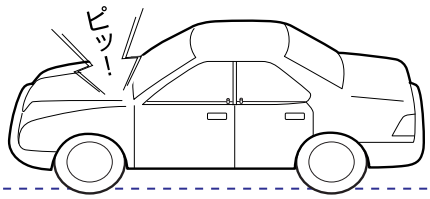
❷ リモコンのレベルインジケータが
短く1回光った後、長く1回光ります。

セキュリティレベルを切り替えている場合は、セキュリティレベルに
応じたLEDのみが光ります。(→P22)



❸ 車両側の6音色サイレンが「ピッ」と鳴り、
ドアがロックされます。

6音色サイレンは操作音カットの設定(→P28)によっては鳴らない
場合があります。
また、ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種に対して
ドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。



これでセキュリティがONになりました。

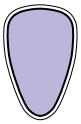
セキュリティをOFFにする

注意 以下の操作をしてセキュリティをOFFにすると、ドアロックも同時に解除されます（ドアロック対応車種にドアロック配線を行なった場合のみ）。

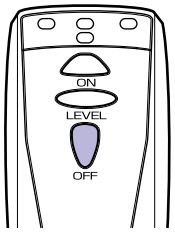
参考 純正キーレスエントリーにドアの自動再ロック機能がついている車でも、本品のリモコンでドアアンロック操作を行なった場合は自動再ロック機能が働かないことがありますので、ご注意ください。

操作方法

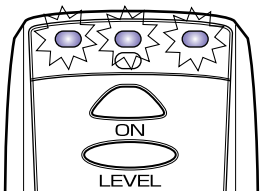
まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

1 リモコンの 

ボタンを押します。

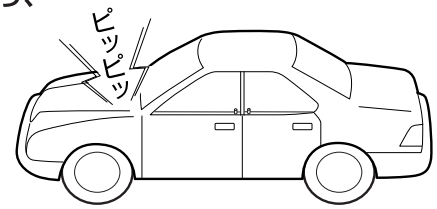


2 リモコンのセキュリティレベルインジケータが短く1回光った後、長く2回光ります。



3 同時に車両側の6音色サイレンが「ピッピッ」と鳴り、ドアがアンロックされます。

（※）6音色サイレンは操作音カットの設定（→P28）によっては鳴らない場合があります。
また、セキュリティ作動中に警報があった場合は、車両側の6音色サイレンが「ピッピッピッピッ」と4回鳴って、警報履歴があった事を知らせます（警報メモリー機能）。また、ドアのアンロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。



これでセキュリティがOFFになりました。

センサー反応時の動作について

解説

本品には、センサーの反応に応じた様々な警報パターンがあります。
本品を最大限に活用していただくために、本項の内容をお読みになった上でご使用ください。
このページに記載されている動作は、**各種設定が工場出荷状態のままの場合**です。
設定の内容が異なる場合は以下の動作内容と異なる場合がありますので、詳しくはそれぞれの設定に関するページをご参照ください。尚、工場出荷状態のままの場合とは、以下の内容を指します。

- ●セキュリティレベルがレベル**3**であること（→P22）
- ●標準ショックセンサーの警報レベルが「L」になっていること（→P27）
- ●注意・警告音カットが「カットしない」になっていること（→P29）
- ●撃退警報時間が「30秒」になっていること（→P35）
- ●オンタイマー機能が作動中でないこと（→P36）
- ●LEDスキャナー機能がONになっていること（→P30）

センサー反応時の動作

		6音色サイレンの鳴り方
標準装備のセンサー	① 微衝撃センサー反応時	「注意」 （ピッ　　ピッ）
	② 高衝撃センサー反応時	「警告」 （約１秒間のサイレン音）
	③ 電流センサー反応時 （電流センサーON時のみ）	「撃退」 （約30秒間のサイレン音） 6音色の連続切り替え
	④ ドアセンサー反応時 （ドア検出コード接続時のみ）	
オプションセンサー（別売）	⑤ オプションケーブルの 「注意入力コード」（青色） に接続したセンサーが反応した場合	「注意」 （ピッ　　ピッ）
	⑥ オプションケーブルの 「警告入力コード」（茶色） に接続したセンサーが反応した場合	「警告」 （約１秒間のサイレン音）
	⑦ オプションケーブルの 「撃退入力コード」（緑色） に接続したセンサーが反応した場合	「撃退」 （約30秒間のサイレン音） 6音色の連続切り替え

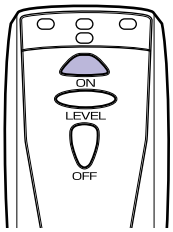
※アンテナユニットのLEDスキャナーも、センサー反応時に点滅します。

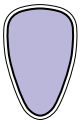
鳴っているサイレンを止めるには

① リモコンの

ボタンを押します。

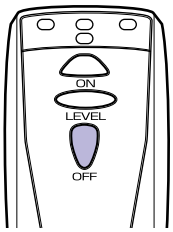
※セキュリティがONになった状態でサイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合は同時にドアがロックされます。）



② または、リモコンの 

ボタンを押します。

※セキュリティがOFFになった状態でサイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合はセキュリティだけでなく
ドアロックも解除されます。）



アイドリング中に働くセンサーについて

（別売エンジンスターター接続時およびキーによるエンジン始動時）

別売のエンジンスターター接続時およびキー始動によるアイドリングを行なっている時にセキュリティをONにした場合に反応するセンサーは次の通りです。

・ドアセンサー
・撃退入力コードに接続したオプション
（アイドリング中の撃退線検出がONになっている場合のみ→P37）

これら以外のセンサーは誤作動を防ぐために反応しませんのでご注意ください。

応用操作

この項では、本品をより便利に使いこなすための操作方法を解説しています。

ページ

セキュリティレベルを切り替える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

パニックアラームを鳴らす ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

セキュリティレベルを切り替える

活用例

本品は、セキュリティレベルを切り替えることで使用環境に合わせた使い方ができます。

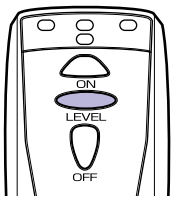
解 説

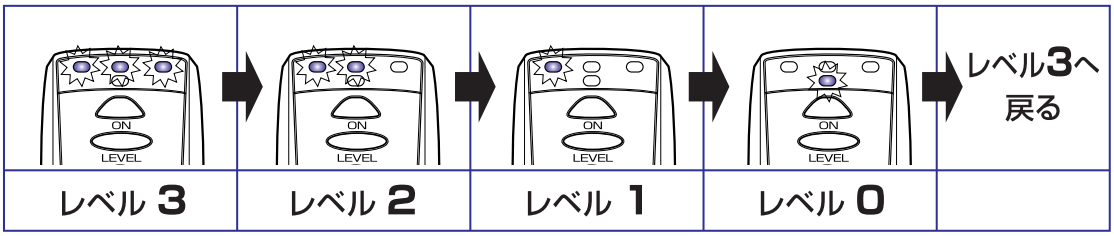
●全ての警報を活かしたい場合・・・**レベル3でご使用ください。**
●交通量の多い場所や、電車などによる振動が強く、微衝撃センサーを働かせたくない場合
・・・**レベル2がおすすめです。**
●立体駐車場など、衝撃センサーをカットして、ドアの不正開放のみに対して反応させる場合
・・・**レベル1がおすすめです。**
●センサーを一切働かせず、スターターカット機能のみ活用する場合
・・・**レベル0でご使用ください。**

操作方法

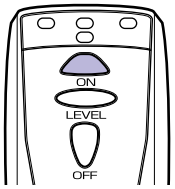
まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。
（※）この時、セキュリティの状態がOFF・ONいずれの場合でも以下の操作は同じ手順で行うことができます。

1 目的のレベルになるまでリモコンの LEVEL ボタンを押します。





2 目的のレベルが表示されている状態で、リモコンの ON ボタンを押します。



（※）しばらく操作をしないで放置すると自動的に最初の状態に戻ります。

3 車両側の6音色サイレンが「ピッ」と鳴り、ドアがロックされます。

●6音色サイレンは操作音カットの設定（→P28）によっては鳴らない場合があります。また、ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種に対してドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。

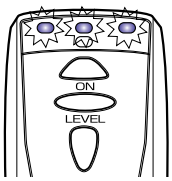
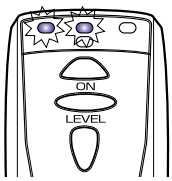
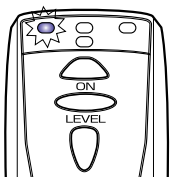
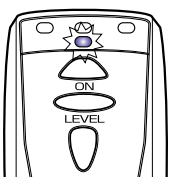
これで目的のレベルでセキュリティがONになりました。

参考

セキュリティレベルを切り替えると、次に ON ボタンでセキュリティをONにした時にも、切り替えたレベルでセキュリティがONになります。

セキュリティをONした時に働く機能の一覧

アイドリング中に働くセンサーについてはP19を参照ください。

セキュリティレベル		レベル 3 （工場出荷時）	レベル 2	レベル 1	レベル 0
リモコン表示					※緑LEDが光ります。 
標準装備のセンサー	微衝撃センサー	○	× （※1）	×	×
	高衝撃センサー	○	○	× （※1）	×
	電流センサー（※2）	○	○	○	×
	ドアセンサー（※3）	○	○	○	×
オプションケーブルに接続したセンサー	注意入力コード	○	×	×	×
	警告入力コード	○	○	×	×
	撃退入力コード	○	○	○	×
スターターカット機能（→P32）		○	○	○	○

（※1）・・・アンテナユニットの設定スイッチNo.4（標準ショックセンサー警報レベル）を「H」（ON側）にした場合には反応します。（→P27）

（※2）・・・メインユニットの設定スイッチNo.2（電流センサー）が「使用する」（ON側）の場合のみ反応します。ドアセンサーの配線を行なった場合など、電流センサーを「使用しない」（OFF側）に設定した場合は、電流センサーは反応しません。（→P33）

（※3）・・・ドア検出コードを配線した場合のみ反応します。

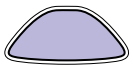
パニックアラームを鳴らす

解説

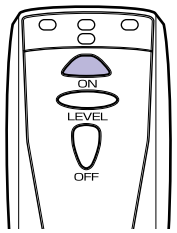
本品は、リモコンの操作により強制的に30秒間6音色サイレンを鳴らすことができます。周囲に危険を知らせたい場合の「パニックアラーム」として使用してください。
この機能はセキュリティのON/OFFや駐車中/走行中などの区別なく使用できます。

⚠警告 本品の6音色サイレンは115dBの大音量を発するため、人やペット・動物などの至近距離で作動させると聴覚障害の原因となる危険性があります。絶対にイタズラなどの目的では使用しないでください。

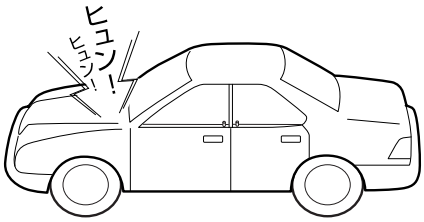
操作方法

❶ リモコンの  ボタンを5秒以上押します。

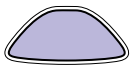
※ドアロックコードを接続している場合は同時にドアがロックされます。



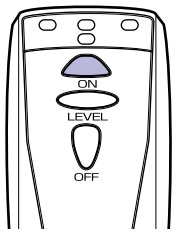
❷ 車両の6音色サイレンが鳴ります。

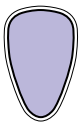


※誤ってパニックアラームを鳴らしてしまった場合は、落ち着いて以下のいずれかの操作を行なってください。パニックアラームの途中で6音色サイレンを止めることができます。

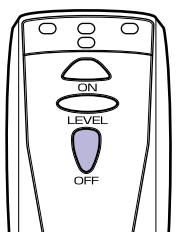
① リモコンの  ボタンを押します。

※セキュリティがONになった状態で6音色サイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合は同時にドアがロックされます。）



② または、リモコンの  ボタンを押します。

※セキュリティがOFFになった状態で6音色サイレンは停止します。
（ドアロックコードを接続している場合はセキュリティだけでなくドアロックも解除されます。）



基本的な本体設定

この項では、使用状況に合わせて簡単に設定できる便利な機能を解説しています。
この項で行なう設定のほとんどはアンテナユニットのスイッチを使用して行ないます。

2段階ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・ 26
2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する ・・・・・・ 27
サイレンを鳴らさずセキュリティをON/OFFする ・・・・・・・・ 28
「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする ・・・・・・・・ 29
LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・ 30

2段階ショックセンサーの感度を調整する

解説

本品の2段階ショックセンサーには、衝撃の強さに応じた2つのセンサー回路が内蔵されています。

【2段階ショックセンサー反応の目安】

微衝撃センサー	弱い衝撃に対して反応するセンサー（こぶしで軽く車体を叩く程度の衝撃）
高衝撃センサー	強い衝撃に対して反応するセンサー（こぶしに力を込めて強く車体を叩くような衝撃）

参考

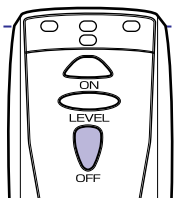
車両のボディサイズ・車体剛性・取り付け位置・衝撃を与える場所などによって衝撃センサーの感度は大きく影響されます。また、感度を強めに設定した場合は、改造車のマフラー音やトラックなどの走行時の強い揺れを衝撃と判断して反応してしまう場合がありますのでご注意ください。

操作方法

感度調整を行う場合の注意

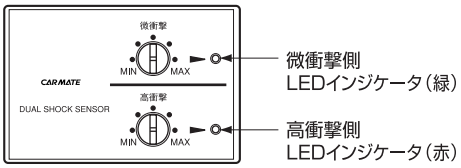
- 衝撃を与える間隔は3.5秒以上空けてください。2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えても本体は3.5秒置きにしか反応しません。
- 車体を叩く際は、ボディのへこみやガラスの破損などに充分注意して行なってください。万一車体などが損傷した場合の責任は負いかねます。
- 感度調整ボリュームは精密部品です。回しすぎるとボリュームが破損し、感度の調整ができなくなりますのでご注意ください。
- 感度の設定を強くしすぎると誤作動の原因となりますのでご注意ください。

① リモコンでセキュリティをOFFにします。



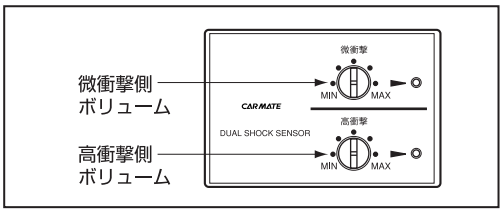
② 車体に衝撃を加え、2段階ショックセンサーのLEDが点灯するかどうか確認します。

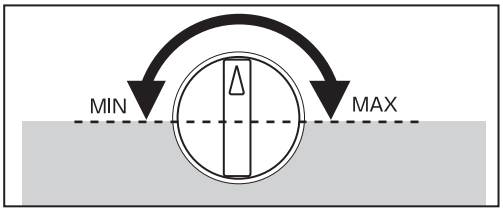
（2段階ショックセンサーをLEDの点灯が確認できない位置に取付けた場合はセキュリティをレベル3でONにした状態でサイレン音を参考にして感度調整を行なってください。）



③ 希望する感度になるように、感度調整ボリュームを手でゆっくりと回して調整していきます。

（感度調整ボリュームは精密部品です。回しすぎるとボリュームが破損する原因となりますので、感度調整は慎重に行なってください。）





調整可能範囲は約180°です。調整可能範囲を超えて回さないでください。

2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更する

解説

本品は、標準の2段階ショックセンサーが反応した時の警報レベルを変更することができます。

▼設定できる警報レベルについて

「L」 注意・警告 （標準設定）	微衝撃センサー反応時・・・「注意」（6音色サイレンが「ピッピッ」と鳴ります。）
	高衝撃センサー反応時・・・「警告」（6音色サイレンが約1秒鳴ります。）
「H」 警告・撃退	微衝撃センサー反応時・・・「警告」（6音色サイレンが約1秒鳴ります。）
	高衝撃センサー反応時・・・「撃退」（6音色サイレンが約30秒（※）鳴ります。）

（※）撃退警報時間の設定（→P35）によります。

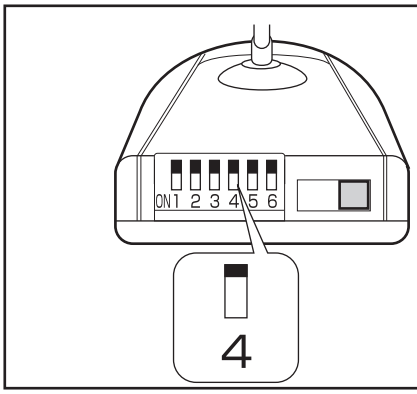
・「H」に設定した上で2段階ショックセンサーの感度を弱めに設定しておくと、誤作動は少なく、かつ万一の際には強い警告を行なうことができます。

参考

・「H」に設定した状態で高衝撃センサーが反応した場合、一旦「警告」のサイレンが鳴った後「撃退」が鳴ることがありますが異常ではありません。
・この設定は標準の2段階ショックセンサーの警報レベルのみを切り替えます。オプションのショックセンサーを接続している場合、この設定によってオプションのショックセンサーの警報レベルは変更されません。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.4「標準ショックセンサー警報レベル」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	標準ショックセンサー 警報レベル
OFF（上側）	「L」 注意・警告 （標準設定）
ON（下側）	「H」 警告・撃退

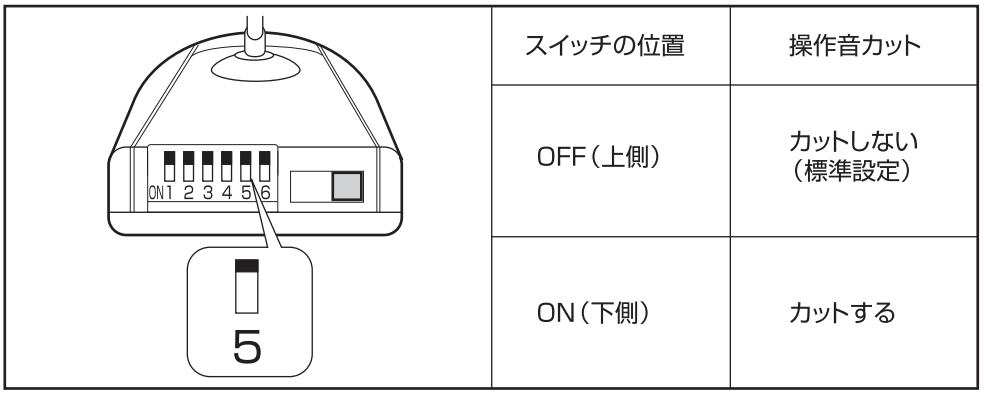
サイレンを鳴らさず セキュリティをON/OFFする

解 説

本品は、セキュリティをON/OFFする際の車両サイレン音（操作確認音）をキャンセルすることができます。
使用される場所の環境に合わせて設定してください。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.5「操作音カット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	操作音カット
OFF（上側）	カットしない（標準設定）
ON（下側）	カットする

「注意」および「警告」のサイレンを鳴らさないようにする

解説

本品は、「注意警報」および「警告警報」を鳴らさないように設定することができます。
2段階ショックセンサーの反応時に車両サイレンを鳴らしたくないような場合にご使用ください。

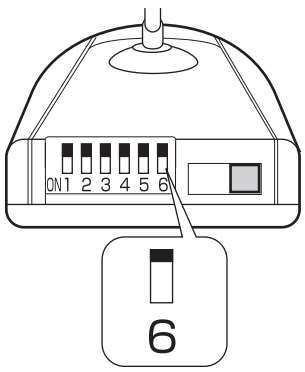
参考

この設定で鳴らさないようにできるセンサー

・微衝撃センサー
・高衝撃センサー（標準ショックセンサーの警報レベル（→P27）が「L」の場合のみ）
・オプションケーブルの注意入力コードに接続したオプションセンサー
・オプションケーブルの警告入力コードに接続したオプションセンサー

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.6「注意・警告音カット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	注意・警告音カット
OFF（上側）	カットしない（標準設定）
ON（下側）	カットする

LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する

解 説

本品は、アンテナユニットのLEDスキャナーを作動させるかどうか設定することができます。

■LEDスキャナー機能ON時の光り方

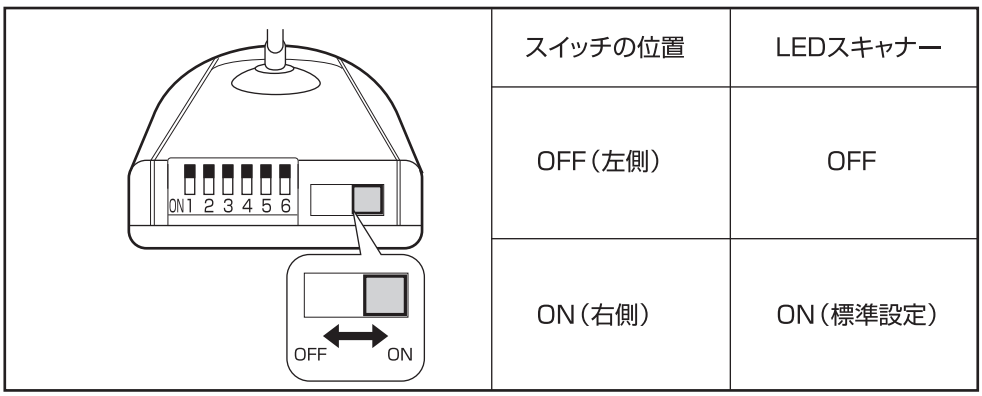
セキュリティ ON	約3秒おきに点滅
セキュリティ OFF	消　灯

参考

・LEDスキャナーの消費電流について
本品のLEDスキャナーは、約0.2mAという非常に低い消費電流で作動しているため、LEDスキャナーを使用することで車両バッテリーに過大な負担を与える心配はありません。

設定方法

アンテナユニットのスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	LEDスキャナー
OFF（左側）	OFF
ON（右側）	ON（標準設定）

システム初期設定

この項では、取付け時に行う設定内容を詳しく解説しています。
通常、取付け後に設定を変更する必要はありませんが、別売オプションを追加された場合や、車の駐車環境が変わるなどした場合に必要に応じて設定し直すことができます。

またこの設定項目の中には、むやみに変更すると、各機能が正常に作動しなくなったり、セキュリティが誤作動あるいは未作動を起こす原因となるものがありますので、必要な場合以外は変更しないようにお願いします。

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 32
電流センサーのON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 33
電流センサー感度の選択 ・・・・・・・・・・ 34
撃退警報時間の設定 ・・・・・・・・・・ 35
オンタイマー機能の時間設定 ・・・・・・・・・・ 36
アイドリング中の撃退入力検出の有無設定 ・・・・・・・・・・ 37

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

※直接配線キットSQ110で取付けている場合はこの機能をお使いいただくことはできません。

解 説

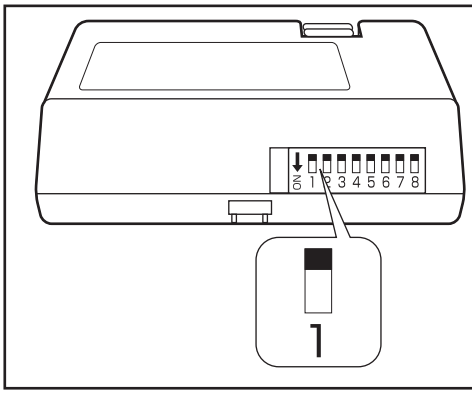
本品は、万一の際に車両の乗り逃げを防ぐため、セキュリティがONになっている時にはセルモーターが回らないようにすることで、例え純正の鍵を使用した場合でもエンジンを掛ける動作を禁止できます。
リモコンでセキュリティをOFFにすると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

⚠注意

- この設定を行なった場合、防犯性は増しますが、例えばセキュリティON中にリモコンが電池切れになりセキュリティをOFFにできない状況ではエンジンが始動できなくなることをご承知置きください。
- 万一セキュリティON中にリモコンの紛失や破損などがあり、セキュリティをOFFにできない場合は、本品のリセットスイッチを使用して本機能の強制解除を行なっていただく必要があります。そのため、リセットスイッチの位置は事前に確認しておくことをおすすめします。リセットスイッチは第三者に見つかりにくい場所に設置しておいてください。
  特にレベル0でセキュリティをONした場合（→P22）も、乗り込む際には忘れずに本品のリモコンでセキュリティをOFFする必要があります。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.1「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	スターターカット
OFF（上側）	使用しない（標準設定）
ON（下側）	使用する

強制解除の方法

セキュリティON中のリモコン紛失などの場合は以下の手順で本機能を強制解除してください。
①純正キーを使用して車両ドアを開ける
　※この際は、ドアの不正開放と判断されるため6音色サイレンが鳴りますのでご注意ください。
　（レベル0の設定を行なっている場合以外）
②純正キーをキーシリンダーに差し込んで、エンジンを始動させる時と同様に回す
③一旦サイレンが停止するので、その間に本品のリセットスイッチをOFFにする
　※リセットスイッチをOFFにしないと、しばらくして再び6音色サイレンが鳴り出します。
④リセットスイッチをONにすると、セキュリティが解除された状態に戻ります。

電流センサーのON/OFF設定

解説

本品は、ドアやトランクの不正開放を簡易的に検出できるよう、電流センサーを装備しています。
電流センサーとは、ドアやトランクを開けた際に車両のルームランプやトランク照明などが光ることを利用し、その際に起きる車体の微妙な電流変化を検知するものです。

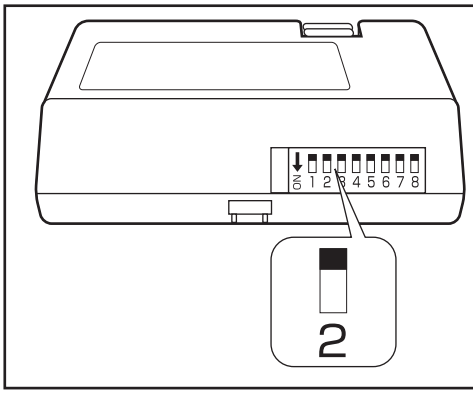
⚠注意

本機能は簡易的にドアなどの開放を検出するもので、車両によっては誤作動または未作動となる可能性があることをご承知置きください。

- 電流センサーを使用する場合は、車両ルームランプのスイッチを「DOOR」の位置にしておいてください。
- 車両によっては、駐車中にドア開放以外の場合にも車体の電流が微妙に変化している場合があり、その場合は電流センサーが誤って反応する可能性があります。
  また、ドア開放時の電流変化が少ない車両の場合は、本センサーが反応できない場合があります。
- ドア検出コードを配線している場合は電流センサーをOFFにしてご使用ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.2「電流センサー」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	電流センサー
OFF（上側）	使用しない（標準設定）
ON（下側）	使用する

関連項目

電流センサー感度の選択（→P34）

電流センサー感度の選択

（電流センサーがONの場合のみ有効です）

解 説

本品の電流センサーは2段階の感度調節が可能です。

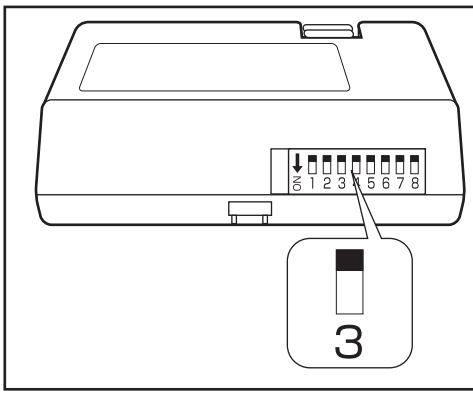
⚠注意

本機能は簡易的にドアなどの開放を検出するもので、車両によっては誤作動または未作動となる可能性があることをご承知置きください（詳しくは33ページを参照願います）。

・電流センサーは感度を上げると誤検出しやすくなるため、必要以上に感度を上げないでください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.3「電流センサー感度」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	電流センサー感度
OFF（上側）	弱　い （標準設定）
ON（下側）	強　い

関連項目

電流センサーのON/OFF設定（→P33）

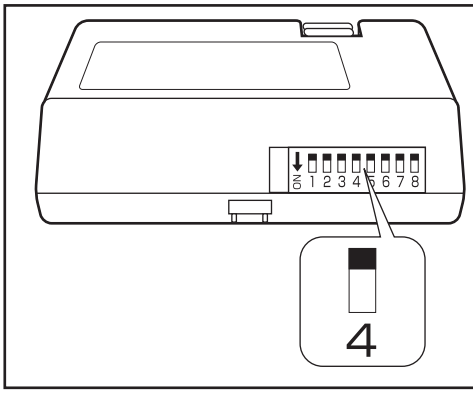
撃退警報時間の設定

解 説

撃退警報時間とは、ドアセンサー・電流センサー・高衝撃センサー（設定「H」の時のみ・・・→P27）
およびオプションケーブルの撃退入力コードに接続したセンサーが反応した場合に行なう 警報の時間です。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.4「撃退警報時間」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	撃退警報時間
OFF（上側）	30 秒 （標準設定）
ON（下側）	3 分

オンタイマー機能の時間設定

解 説

本品は、セキュリティONの操作から一定の時間は下記のセンサーを作動させなくすることができます。

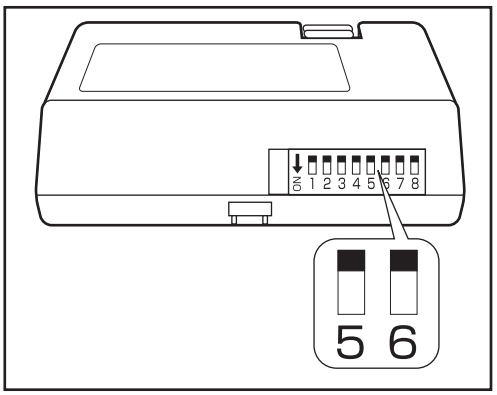
- 微衝撃センサー
- 高衝撃センサー
- 電流センサー
- オプションケーブルの各入力コードに接続したオプションセンサー

この機能は以下のような車両の場合に便利です。

- エンジンを停止してから一定時間経過後に自動的に電動ファンが回る車の場合
- エンジンを停止してから一定時間経過後にオートスタビライザーなどが自動的に作動する車の場合
- エンジンを停止してから一定時間経過後に自動的にエアコンのファンが作動する車の場合

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.5および6「オンタイマー時間」を切り替えることで設定が行なえます。



オンタイマー時間の設定
（2個のスイッチの組み合わせで時間を決定します）

	No.5	No.6
使用しない（標準設定）	OFF	OFF
1 分	ON	OFF
15分	OFF	ON
60分	ON	ON

アイドリング中の撃退入力検出の有無設定

※オプションケーブルの撃退入力コードに別売オプションを接続している場合のみ設定が必要です。

解 説

本品に別売のリモコンエンジンスターターを接続した場合、セキュリティがONの状態でもエンジンスターター機能を使用してエンジンを掛けることができ、また、ターボタイマー作動中でもリモコンからセキュリティをONにすることができます。
本設定を行なうと、別売のリモコンエンジンスターターのエンジンスターター機能またはターボタイマー機能を使用してエンジンを掛けている間に、オプションケーブルの撃退入力コードに接続したセンサーの信号を検出するように設定できます。

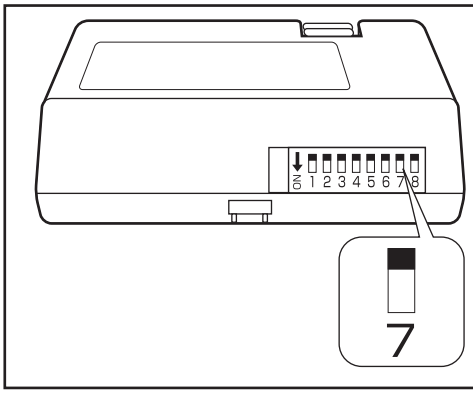
⚠注意

撃退入力コードに接続しているオプションセンサーが、エンジン作動中に誤反応を起こす可能性がある場合は、本設定は変更しないでください。

- ショックセンサー・エリアセンサーなど、エンジンが掛かっていることによる車の振動などで反応する可能性がある場合は「しない」に設定してください。
- ループセンサーなど、エンジンが掛かっていることによる車の振動などで反応しないセンサーの場合は「する」に設定することをおすすめします。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.7「アイドリング中の撃退線検出」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	アイドリング中の撃退線検出
OFF（上側）	しない（標準設定）
ON（下側）	す　る

取付け後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。

スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） …… 40
リモコンの電池交換について …… 41
交換用ヒューズについて …… 42
故障かな?と思ったら …… 43

スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法）

解 説

本品は、別売のスペアリモコン（SQ108）を追加することで、標準装備のリモコンを含めて最大5台のリモコンで操作することができるようになります。

IDの書込み方法

1・車両のエンジンが停止した状態でキーを抜きます。

2・アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID追加書込」を「書込」（ON側）にします。
（アンテナユニットのLEDスキャナーが点灯します。）

参考 リモコンを紛失した場合など、元々書き込まれていたIDを消去する必要がある場合は、ID書き込み時にアンテナユニットの設定スイッチNo.1とNo.3を両方ON側にしてからIDの書き込みを行なってください。

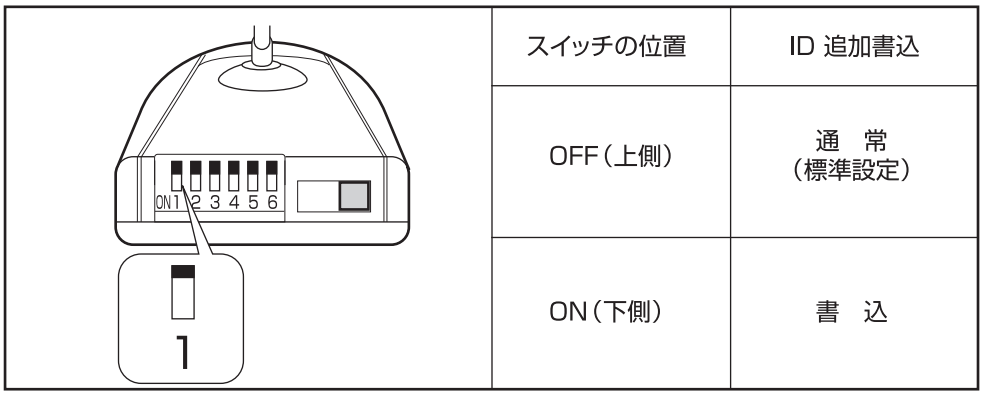
3・およそ3秒くらい待ってから、リモコンでセキュリティONまたはOFFの操作をします。

4・書き込みが行はわれると、アンテナユニットのLEDスキャナーが一旦消灯し、再点灯します。

5・複数台のIDを書き込む場合は、リモコンを替えて更に3～4の操作を繰り返します。

6・書込みが終了したら、アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID追加書込」を「通常」（OFF側）にします。

※周囲の電波状況などにより、正常に書込みできない場合があります。そのような場合は再度書込み操作を行なってください。



スイッチの位置	ID 追加書込
OFF（上側）	通　常 （標準設定）
ON（下側）	書　込

リモコンの電池交換について

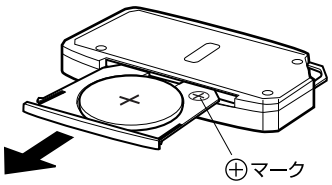
解 説

ここでは、本品の電池交換方法について解説します。

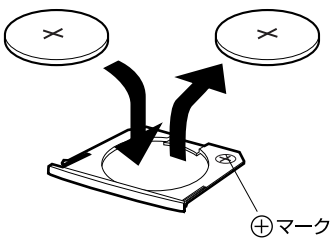
※交換用電池（CR2025）はお近くのコンビニエンスストアなどでお買い求めいただけます。

電池の交換方法

❶ リモコン裏面の電池ケース部分を
スライドして取出します。

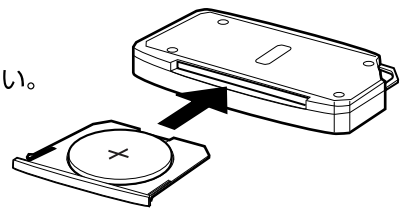


❷ 電池を新品に交換します。



❸ 電池ケースを元の状態に戻します。

※電池ケースの向きには充分注意してください。



以上で電池交換は完了です。
使い終わった電池は、各自治体が定める方法で処理してください。

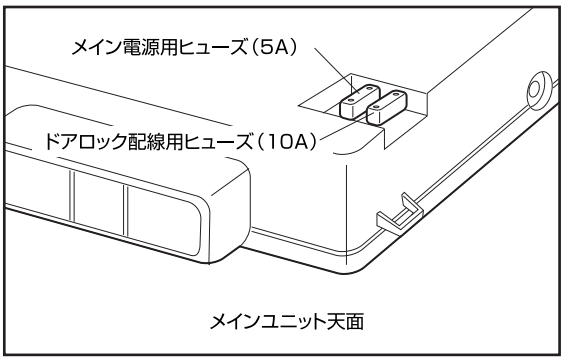
交換用ヒューズについて

解説

本品は、万一の配線ショート等に備え、メインユニットに交換可能なヒューズを装備しています。

⚠注意 指定容量以外のヒューズは使用しないでください。故障や電気配線の損傷・火災の原因となる場合があります。

ヒューズの交換方法



共に市販の「ミニ平形ヒューズ」を使用します。
専用オプションの設定はありません。

1・エンジンを停止させキーを抜き、本品のリセットスイッチをOFFにします。
2・切れているヒューズを引き抜きます。（本品に専用工具は付属していません。市販の工具を使用してください。）
3・ヒューズが切れた原因が取り除かれていることを確認してから、新しいヒューズを差し込みます。
4・本品のリセットスイッチをONにします。
5・本品を作動させ、ヒューズが切れないことを確認します。

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が切れていませんか？ 電池を交換してから操作してください。	P41
	ボタンでセキュリティONした時、 レベル3にならない	セキュリティレベルの設定が変更されていませんか？ 変更されている場合は再度設定を行なってください。	P22

	症　状	解　説	参照ページ
セキュリティ機能について	車を叩いてもショックセンサーが反応しない	2段階ショックセンサーの感度調整が弱すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を強めてください。	P26
		2段階ショックセンサーはしっかり固定されていますか？固定されていない場合は、車両内装部分にしっかりと取付けてください。	–
		本品は「電磁誘導式」の新型センサーを採用したため、不確実な外部振動に対しては反応しにくくなっています。その結果、誤作動の可能性は減少しており、不必要な警報が行なわれにくくなっています。 SQ1000・3000シリーズと比較した場合センサー感度が弱いと感じることがあります。	–
	2段階ショックセンサーのLEDインジケータが反応しているのにサイレンが鳴らない	セキュリティがONになっているかどうか確認してください。 セキュリティがOFFの場合はセキュリティをONにしてください。 （セキュリティOFFの状態でも2段階ショックセンサーのLEDは衝撃に反応して点灯します。）	P16
		セキュリティレベルの切替は適切ですか？ セキュリティレベルをレベル3などに切り替えてください。	P22
		注意・警告音がカットされていませんか？ 注意・警告音カットを「カットしない」に設定してください。	P29
		オンタイマー機能が働いていませんか？ オンタイマー機能の設定を確認してください。	P36
		エンジンが掛かっていませんか？ エンジン始動中は、誤作動を防ぐため衝撃センサーが反応しません。	P19
		イグニッションがONになっていませんか？ショックセンサーはイグニッションOFFの状態でしか作動しません（2段階ショックセンサーのLEDは衝撃に反応して点灯します）。	–
	2段階ショックセンサーが反応しない時がある	2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えた場合、1回反応してから約3.5秒間は次の警報を行なわないようになっていますが異常ではありません。	P26

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
セキュリティ機能について	2段階ショックセンサーが反応してからサイレンが鳴るまで時間が掛かる	微衝撃センサーの反応時（標準ショックセンサー警報レベル「L」の時→P27）および、オプションケーブルの注意入力コード（青）に接続したオプションが反応した場合、実際にサイレンが鳴るまでおよそ1秒弱の間隔がありますが異常ではありません。	P26
	ドアを開けてもサイレンが鳴らない	電流センサーによるドア検出を行なっている場合、ルームランプが「DOOR」の位置になっている必要があります。 また、電流センサーの感度設定も併せて確認してください。	P33～P34
		残光機能付きの車両の場合、セキュリティをONにしたあと、ルームランプやキーリング照明などが消えてからでなければ、ドアセンサーが働かない場合があります。	–
	何も異常が無いのに警報が鳴る	2段階ショックセンサーの感度調整が強すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を弱めてください。	P26
		電流センサーがONになっている場合、車両側の電装品やファンなどが動いた際に電流センサーが反応してサイレンが鳴ることがありますが本品の異常ではありません。（車両によってエンジン停止中に自動的に作動する電装品やファンなどがある場合がありますのでご注意ください。） このような車両の場合、オンタイマー機能を使用するか、ドア検出コードの配線を行なう必要があります。	P33～P34 P36
		温度変化などにより車両の内外装パーツ（特に樹脂部品のカン合部）が膨張・収縮して2段階ショックセンサーが反応している可能性があります。	–
		車上荒らし・車両窃盗犯がセキュリティを解除させる目的で、特に夜間、故意に車両に衝撃を与えて様子を伺う事例が報告されていますのでご注意ください。 ※ご自分で犯人を捕まえようとする行為は大変危険です。このような場合は、警察に相談されることを強くおすすめします。	–
		セキュリティON時に ボタンを長押しするとパニックアラーム機能が働き、強制的にサイレンが鳴りますのでご注意ください。	P24
	セキュリティONすると突然サイレンが鳴る	セキュリティON時に ボタンを長押しするとパニックアラーム機能が働き、強制的にサイレンが鳴りますのでご注意ください。	P24
		電流センサーがONになっている場合、車両側の電装品やファンなどが動いた際に電流センサーが反応してサイレンが鳴ることがありますが本品の異常ではありません。（車両によってエンジン停止中に自動的に作動する電装品やファンなどがある場合がありますのでご注意ください。） このような車両の場合、オンタイマー機能を使用するか、ドア検出コードの配線を行なう必要があります。	P33～P34 P36

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
セキュリティ機能について	電流センサーが反応しない	電流センサーは車両によって反応しにくかったり反応できない場合があります。これは車両の特性によるものですので、電流センサーの感度を切り替えても解決しない場合はドア検出コードを配線する必要があります。	P33～P34
		電流センサーによるドア検出を行なっている場合、ルームランプが「DOOR」の位置になっている必要があります。 また、電流センサーの感度設定も併せて確認してください。	P33～P34
	スターターカット機能が作動しない	直接配線キットSQ110で取り付けている場合はスターターカット機能が働きません。	P32
		出荷時の設定状態では、スターターカット機能の設定が行なわれていません。 スターターカット機能を設定してください。	P32
	アンテナユニットのLEDスキャナーが点灯しない	LEDスキャナー機能がOFFになっていませんか？ LEDスキャナー機能をONにしてください。	P30

	症　状	解　説	参照ページ
その他の症状	全く作動しない	リセットスイッチが外れていたりOFFになっていませんか？ リセットスイッチをONにしてから操作を行なってください。	P13
		メインユニットのヒューズが切れていませんか？ 配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）に交換してください。	P42
		リモコンの電池が切れていませんか？ 電池を交換してから操作してください。	P41
		リモコンの電池は正しく入っていますか？ 入っていない場合はリモコンに電池を入れてください。	P41
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。 また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロックコードの配線が必要となりますのでご注意ください。	–
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、ドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。	P16
	キーによるエンジン始動ができない	本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？ セキュリティをOFFにしてから再度始動を試みてください。	P17・P32
		専用ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。 接続が確実に行なわれているかどうか確認してください（キーでイグニッションをONにした時に、メインユニットの検電LEDが緑に光っているかどうか確認してください）。	–
	ドアをアンロック（セキュリティOFF）すると車両の純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが異常と判断してホーンを鳴らす場合がありますが異常ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。	–
	その他、動作が不安定な場合	専用ハーネスのアースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	–

仕　様

■リモコン

外形寸法	54x29x13(mm)
重量	約20g
使用電池	CR2025×1ヶ
電池寿命	約2年 （1日に4回使用の場合）
作動温度範囲	0℃ ～ +50℃

■メインユニット

外形寸法	98x158x28(mm) （突起部含む）
重量	約200g
電源電圧	DC12V
消費電流	約16mA（待機時）
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■アンテナユニット

外形寸法	78x45x20(mm) （アンテナ部除く）
重量	約110g
コード長	約2.9m
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■2段階ショックセンサー

外形寸法	42x60x25(mm)
重量	約30g
コード長	約0.9m
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃
センサー	微衝撃･高衝撃の2段階（調整式）

■6音色サイレン

外形寸法	59x59x33(mm) （取付け金具含まず）
重量	約100g
コード長	約4m
最大音圧	約115dB
作動時消費電流	約250mA（最大）
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃